芸術と教育Ⅳ
― 地域への発信：造形表現「夢のたまご」を通して ―

筒　井　通　子
奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

Art and Education Ⅳ
－ A Promotion of Art to Local Areas by the Artistic Expression “Dream Egg” －

Michiko Tsutsui
Naragakuen Univercity Narabunka Women's College

幼児期は周囲の環境とかかわり合う中で人格形成の基礎を培う。幼児は、それぞれの家庭や地域で得た生活経験を基にして、生活に必要な能力や態度などを獲得していく。

そのような時期の教育にかかわろうとする者が、自分の造形表現で地域の子どもたちに「夢」を与えられる場の経験をすることによって、よりよい保育者を目指すことができる。

保育者を目指す学生が「造形の基礎」で身に付けた技術を生かして、身近な廃材や日本の伝統的な和紙を使って、幼児へのメッセージを込めた造形表現「夢のたまご」を制作し展示をすることで「地域への発信」をしたことについて報告する。

キーワード：芸術と教育、地域への発信、造形表現、夢、鑑賞教育

1．はじめに

本学は、奈良県北西部の地域にあり、奈良市西部（伏見･富雄）から生駒市にまたがり近鉄学園前駅の利用が多い。また、西ノ京丘陵の一部にあたり、1950年ごろから宅地開発が行われ、住宅地が広がっている。大阪市まで約20分というアクセスの良さから、大阪市内に勤務する人等が住居を構えるベットタウンとしても閑静な住宅地が広がっている（図１）。

これらの地理的環境を生かすことによって、保育者を目指す者が幅広く幼児教育を体験することができ、また、何のために学ぶのかを知ることができる。

筆者は、幼稚園教育要領の改訂と時期を同じくして、平成20

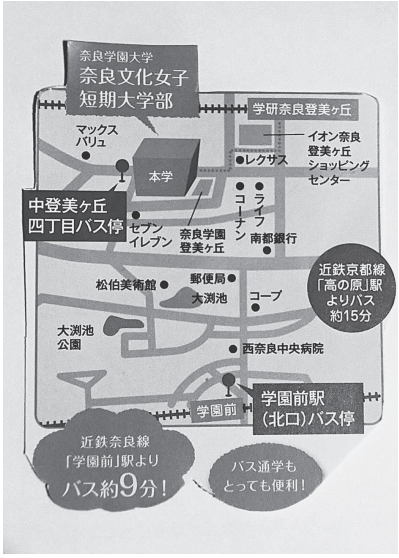


図１　奈良文化女子短期大学部周辺地図

筒井　通子　　〒631-8523　奈良市中登美ヶ丘3－15－1　奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

(2008) 年、国際美術教育学会（InSEA 世界大会 in 大阪2008）で「小学校教育の中での美術教育の重要性」を述べている。学校経営、算数学教育、放送視聴覚教育、図工、美術に関して幼児期、学童期、学生期の研究を続ける中で、学習指導要領で重要視されている「生きる力」について、何が根底にあるかをずっと探求してきた。

今、保育者を目指す者が地域の幼児や保護者等にとって必要な体験ができるような教育的に価値のある場の設定を体験することの必要性を提示する。

筆者は、人格形成の一翼を美術教育が担っていると考える。「芸術と教育」（図１）を保育者が「造形表現」で「地域への発信」をし、幼児教育の基本にせまりながら保育者も育成する一例を紹介する。

この研究は2011年から始まり、４年間続いている。

図１　「芸術と教育」とは

書道、絵画、造形表現「新聞紙で制作した犬」を活用して教育をする。

２.「地域への発信」

２.１　地域での「夢のたまご」

学生が造形表現をした制作物を「夢のたまご」と名付け、展示を通して地域に造形表現の意義や幼児教育、保育者の育成の可能性を発信した。

２.１.１　地域への発信の体験Ⅰ

ブースでの制作物の展示によって、保育者を目指す者が「造形」が単なる「作品づくり」ではなく、自分の「思い」を伝えたり、感じてもらったりするための、一つの手段としての「表現」であるということを理解できる。

また、自分がその体験をすることによって、「造形」に対する感性が養われる（図２）。地域での幼児の体験に役立つことの意義の体感である。

２．１．２　内容と方法

これまでの教育経験を通じて、幼児期には、造形表現活動に結びつく鑑賞活動を行うことが、必要であると、筆者は考える。また、幼児が造形作品を鑑賞したり、作品に触れたりすることによって、感動し、創造力がかきたてられ、制作活動を意欲的に行うことができる。

４歳頃までは、描画活動では形への興味が中心である。４歳前後から、色彩に興味や関心をもつ。そのような時期の幼児に対して、「夢のたまご」と名付けた制作物を地域で展示することで、保育者になる者が、鑑賞活動の一翼をも担うと考え、以下のようにイベントに参加した。

図２　ブースで出展の準備を終えた学生

本イベントの事業企画趣旨は「沿線住民の方々との交流の場の提供」であり、開催場所が地域のショッピングセンターイベント会場で行われたため、幼児や保護者の参加が期待された。会場には、テントを張ったブースが設けられ、その一つのブースに出店をした。展示物は、１回生全クラスの学生が制作した「夢のたまご」で、そのテーマは「子どもへの夢と希望をこめて」である。

日時は、平成23年10月１日午前10時より午後５時、10月２日午前10時より午後４時までの二日間である。「造形教育」で制作をした「夢のたまご」の展示をし、そのことを通して保育者としての実践的な技能を養い、地域の幼児の成長につながる活動を体験した。以下に詳細を書く。

10月１日（土）　イベント時間　10：00～16：00

10：00　開会式。会場開店の10時にあわせて来場者が徐々に増え、開始後すぐに本学テントへの列ができ始めた（図６）。場所は会場東口の真正面で一番目立つ場所であった。

９：00～10：30　この時間帯は１回生Ｃクラス13名が参加し、セッティングと来場者の対応を行った。

その後、学生と高瀬、四本職員、筆者で来場者の対応を行い、大変盛況のうち、１日目を終了した。

会場への来場家族数は約3000で、本学へは341家族以上が来場し、参加ブースでは一番の人気であった。

10月２日（日）　イベント時間　10：00～16：00

８：30　本学学生数名と職員でセッティング、10：00より来場者の対応を行った。

昨日と同じく参加ブースでは一番の来場者であった。参加家族数は137家族。子どもの興味を引く本学の「夢のたまご」の展示は幼児が興味を持つ内容であったため、多数の来場者があった。

２．１．３　成果

多くの幼児や地域の方々でブースは賑わった。幼児は一つ一つの「夢のたまご」を興味をもって見ていた。丸い形や色、大きさに興味をもった。年齢にもよるが、小学生の低学年も多く、掲示された「夢のたまご」の制作意図に読みいる姿があった（図３）。

また、保護者と「夢のたまご」を見ながら会話する姿もみられた（図４、５）。

地域のイベントに自分の制作物を展示し、幼児や地域の方々に興味をもって見ていただき、時には制作意図をより詳しく聞かれることによって、「表現」することの意義を、制作者である学生らは感じることができた（図４）。また、本学の幼児教育学科の学生が、地域の子どもたちに「未来にこんな夢をもってほしい。」と願って、造形表現の一つとして取り組んだ「夢のたまご」の制作と展示の取組と、学生が幼児に制作意図をわかりやすく説明をしたり、質問の応えたりしたことは、地域住民の方々に本校の幼児教育の内容の一部を理解していただく機会となった。

図３　制作意図のカードを読む幼児と保護者

図４　制作した学生に幼児と共に質問する地域の方

図５　保護者と話し合いながら「すきなたまご」に投票する幼児

図６　ブースのテントが満員になり、外で待つ地域の方々

２．２　学園祭での「夢のたまご」

学生が造形表現をした制作物を「夢のたまご」と名付け、学園祭での展示を通して幼児や参加者の地域の方々に造形表現の意義や幼児教育、保育者の育成の可能性を発信した。

２．２．１　地域への発信の体験Ⅱ

この取組を始めて４年目になる。このことによって、地域での制作物の展示によって、「造形」が単なる「作品づくり」ではないことを学生は体感できた。文部科学省の「専門教育に関する各教科　第12節　美術」（第３章）に、第１款の目標として「美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する意欲と態度を養う」[2)] と書かれている。

「表現」はただ、「あらわす」ことではなく、コミュニケーションの手段でもある。また、「感性」は、単に「物事を心に深く感じ取る働き」だけではなく、情操が働き、心が動くことであると筆者は考える。保育者になろうとする者は、「表現」することへの「行動」をする力をもつことが重要である。

「地域への発信」は、イベントだけではない。この地域は、「はじめに」でも筆者が述べたように、多くの住民がおられる。普段も地域との交流事業を進めている本学では、「学園祭」にたくさんの幼児や地域の方々が参加される。「子どもたちに夢や希望」を込めたこの「夢のたまご」を展示し、鑑賞していただく場とした。2011年以後は毎年、展示している。

２．２．２　内容と方法

幼児期には造形表現活動に結びつく鑑賞活動が、必要であると筆者は考えるが、機会は多い方がよい。

また、保育者になる者は、「作品づくり」という考え方ではなく、自分の考えたことや思いを、作品を通して表現する。日常生活の中で多様な表現の方法に気付き、実際の体験を通して考える必要があるため、幼児にもって欲しい「夢と希望」の発信を「学園祭」の展示を通して行ってきた。

平成23年10月の学園祭から現在に至るまで、これを行っている。

制作過程

（１）制作意図の理解（図７、８）制作（１）廃材の利用「夢のたまご」新聞紙を使って（図９、10）

（２）造形素材の特徴を活かした制作（２）「夢のたまご」和紙を使って

（３）夢の表現　素材を生かした制作（３）「夢のたまご」装飾

（４）子どもたちへのメッセージ制作（４）展示用カード制作

図7 「子どもたちにもって欲しい夢」を考え、絵に表現をする学生

図８　昨年度の映像を鑑賞してイメージを作る

図９－１０　課外にもかかわらず夢のたまごの制作に自主的に取り組み最後に掃除をする学生

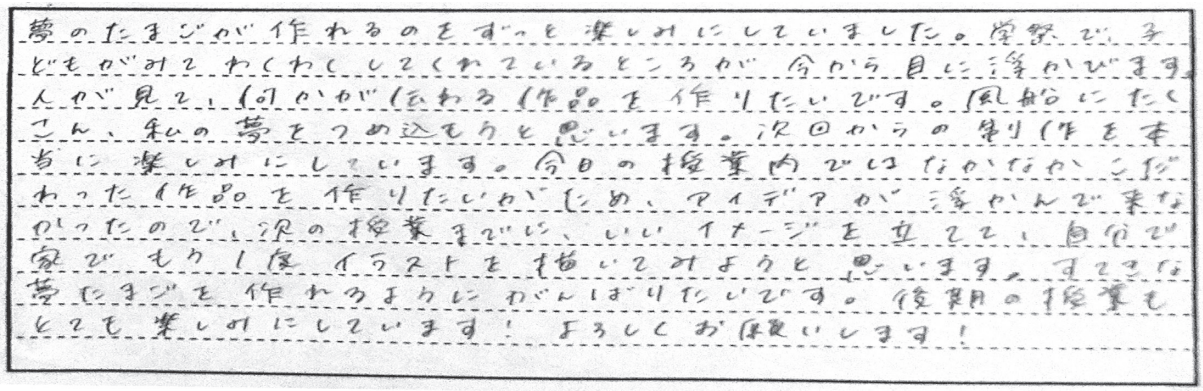
２．２．３　成果

制作の目的や意図を話し合う中で、学生は意欲をもつことができたと考えられる。以下は全授業４時間のうちの１時間目を終えた学生の感想の一部である（原文）。

- いろいろな作品が展示されるのでとても気合が入る。
- 学園祭に展示し、地域な方々に見てもらえるのがとても楽しみです。
- 夢のたまごで子どもたちを喜ばせたい。
- 大変そうですがみんなで協力し合って100個以上完成させて展示したい。
- 100個以上のたまごが吊されるのが楽しみ。
- 今日したことは、創造力がつき、次の行動が待ち遠しくなるものでした。子どもたちにもこの感動を味わってほしい。
- 楽しい授業がこれから待っているみたいでわくわくしました。
- わたしは、去年の学園祭に行ったので「夢のたまご」を見ました。とてもすてきな作品ばかりだったのを覚えています。あれを自分も作るとなると少し不安ですが、良い作品、子どもを感動させる作品を作られたらいいと思います。

学生は、「地域への発信体験Ⅰ」の成果と同様に制作への意欲が湧き、また、幼児へ発信できることへの喜びを感じている。

それに加え、連続して取り組むことによって、見て感動した作品を今度は自分が制作するのだという興味・関心・意欲へとつながる。下記の学生の感想（図11）からは入学前から「夢のたまご」に興味をもっていたことがわかる。また、強く心に残っており、その「夢のたまご」を作ることに非常に意欲をもっていることがわかる。



夢のたまごが作れるのをずっと楽しみにしていました。学祭で、子どもがみてわくわくしてくれているところが今から目に浮かびます。人が見て、何かが伝わる作品を作りたいです。風船にたくさん、私の夢をつめ込もうと思います。次回からの作り作を本当に楽しみにしています。今日の授業内ではなかなかこだわった作品を作りたいがため、アイデアが浮かんで来なかったので、次の授業までに、いいイメージを立てて、自宅でもう1度イラストを描いてみようと思います。すてきな夢たまごを作れるようにがんばりたいです。後期の授業もとても楽しみにしています！よろしくお願いします！

図11　第一時を終えた学生の感想

以上のことから下記のことが言えよう。

- 地域への発信は「夢」が引き継がれることである。
- 年齢の枠を超えた鑑賞が可能である（図12、13）。
- 学生の制作意欲を拡大させることができる。
- 制作意欲の拡大から自主的な学習意欲につながる。

環境の基礎づくりには保育者の存在が大きいが、物的環境の工夫を人的環境である保育者がするのである。

図12 「夢のたまご」を見る幼児

図13 「すきな夢のたまご」を選ぶ幼児と地域の方々

3．おわりに

「芸術と教育」を関連させて教育することの意義を、筆者は長年研究してきた。そして、造形表現「夢のたまご」を通して、「地域への発信」は４年目を迎える。発信した「夢のたまご」を見て本校に入学してきた学生もいる。そして、今は「夢を与えられる保育者」を目指している。

芸術を通じて、造形物を使って教育することは、年齢の開きがあっても心を通わせることができる。また、感動も大きい。保育所、幼稚園、子ども園等から地域への発信があり、様々な理解をされることが望まれている。好奇心や探究心の旺盛な乳幼児期に、自然や身近な環境の中で、身体感覚を養うことが大切である。その身近な環境を幼児教育の場で可能な限り、設定する必要がある。

４年という月日は必要であったが、自分の造形表現で地域の子どもたちに「夢」を与えられる場の経験をすることによって、学生らはよりよい保育者を目指すことができたと考える。

図14　初代「夢のたまご」を制作し、現在、幼稚園保育所等で働いている卒業生

４．謝辞

本研究で使用した写真は保護者の了解を得ましたが、ご協力いただいた方々に心よりお礼を申し上げます。また、時間を惜しむことなく、「夢のたまご」の制作に関わった卒業生（図14）、学生に感謝します。

引用文献

１）奈良学園大学奈良文化女子短期大学部 CollegeGuide2015　p 25
２）文部科学省（2008）幼稚園教育要領解説：2

参考文献

１）筒井通子（2013）「芸術と教育Ⅲ奈良文化女子短期大学紀要．第44号：147-154
２）筒井通子（2012）「芸術と教育Ⅱ」奈良文化女子短期大学紀要．第43号：87-95
３）筒井通子（2011）「芸術と教育」奈良文化女子短期大学紀要．第42号：67-78
４）筒井通子（2008）国際美術教育学会誌2008「小学校教育の中での美術教育の重要性について」．7pp
インターネット http://www.insea.org/
５）文部科学省（2008）中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導
６）厚生労働省（2008）保育所指針解説書